

整形外科学

1 臨床実習の概要

整形外科学実習では整形外科領域の疾患を持つ患者の診療に積極的に参加し、整形外科学の主要な病態、診断、治療を理解し、患者とチームメンバーを尊重した整形外科領域の疾患に関わる医療を学ぶ。ユニット講義の学習を発展させ、臨床実習だけではなく、関連のユニット講義の到達目標も合わせて達成するように進める。

2 金沢医科大学の到達目標（アウトカム）

- ①豊かな人間性と倫理観
- ②生涯学習
- ③医学知識と技能
- ④患者中心・チーム医療とコミュニケーション能力
- ⑤地域医療・社会貢献・国際貢献
- ⑥科学的態度・探求心

3 臨床実習の到達目標（アウトカム）：

※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学の到達目標との関連を示す。

- 担当患者ならびに関わる多職種と良好な人間関係をつくることのできる（①④）
- 整形外科領域の疾患を通して疾患を探究する方法論（文献検索と理解など）を実践できる（②③⑥）
- 整形外科領域の疾患の症例を自ら学び、まとめ、症例提示をすることができる（③⑥）
- 整形外科領域の疾患の患者を通して…
 - ・ 医療面接、身体診察など基本的な情報収集ができる（③）
 - ・ 収集した情報から臨床問題の提示、主要な鑑別診断を挙げることができる（③）
 - ・ 臨床的諸問題に対して初期計画（診断、治療、教育）を立案できる（③）
 - ・ 主要な症候・疾患における病態生理、組織学的・臨床的特徴、診断基準を説明できる（③）
 - ・ 主要な症候・疾患における必要な検査、治療、合併症、予後の要点を説明できる（③）
 - ・ 基本的な検査を実施し、結果を解釈できる（③）
- 骨関連疾患の医療に関わる…
 - ・ 多職種・チーム医療に学生として参加できる（④）
 - ・ 社会制度（厚生医療など）を説明できる（④⑤）

※主要な疾患、症候、検査、治療

症候

皮膚の異常・腫脹、疼痛、局所熱感、発熱、変形と姿勢異常、関節運動性の異常、麻痺、歩容状態の異常

疾患・治療

変形性脊椎症、脊髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、変形性関節症、骨壊死症、末梢神経障害、大腿骨頸部骨折、脆弱性骨折、腱・靭帯損傷、スポーツ障害
椎弓形成術、ヘルニア摘出術、人工関節置換術、関節鏡手術、骨接合術

検査・医用機器など

内視鏡検査、超音波検査、X線検査、CT/MRI検査

4 学 習 方 略

病棟、ならびに外来臨床実習、場合によっては学外実習もあり得る

5 事前事後学修について

臨床実習開始前に整形外科領域の臨床実習予習ノートを終らせておくこと

【自己学習（事前事後学修）に必要な時間】

実習1日あたり 予習：60分 復習：60分

6 課題（実習中の課題やレポート等）に関するフィードバック

担当患者の提示や口頭試問については、実習中のクルズス等で適宜フィードバックを行う。

7 評 価

評価項目	評価割合
臨床実習出席（出席表）	20%
実習レポート（担当症例のレポート）	20%
担当患者症例提示	20%
口頭試問	20%
その他	20%
上記の評価項目を別途定めた臨床実習の評価基準に沿って判定する。	

8 実習スケジュール

別項参照

9 教育担当者

実習責任者：市堰 徹（整形外科学）

担当教員：川原教授、兼氏教授、市堰教授、川口准教授、舘講師、高橋講師、
植田講師、織田助教、相馬助教、福井助教、福助教、北島助教、
江端助教、森本助教、小野地助教、三治助教、畠中助教

10 参考図書・文献

購入すべき図書

1. 標準整形外科 医学書院
2. 整形外科クルズス 南江堂

整形外科学

臨床実習スケジュール表

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月	回診	オリエンテーション [市堰・植田]	外来実習 [川原・兼氏]			患者紹介、実習目標・内容・評価法の説明、病歴・現症・検査等の進め方の説明 [市堰]				術前・術後CC [兼氏・市堰]	
火	術前CC [兼氏・市堰]	手術実習 (担当症例) [兼氏・市堰]				手術実習 (担当症例) [川口]					
水		外来実習 [外来担当医]				外来実習			講義 [植田]		
木	術前・術後CC [兼氏・市堰]	症例検討・発表 [川口]	手術実習 (担当症例) [兼氏・市堰]			スキルアッププログラム(座学)					
金		スキルアッププログラム(座学)				スキルアッププログラム(座学)					

実習第1日目の集合場所・時間：臨床研究棟2階 整形外科学 医局 午前7時50分